

概要

- 新潟市の都心エリア「にいがた2km」を拠点とし、新潟大学、地元IT企業・食関連企業等が協働し、デジタル技術を活用した、味の特性分析による食の高付加価値化・ブランド化と効果的・効率的な商品開発を行い、食や農など新潟市の強みを生かした革新的ビジネスの創出と若者にとって魅力的な就業の機会の創出に取り組む。

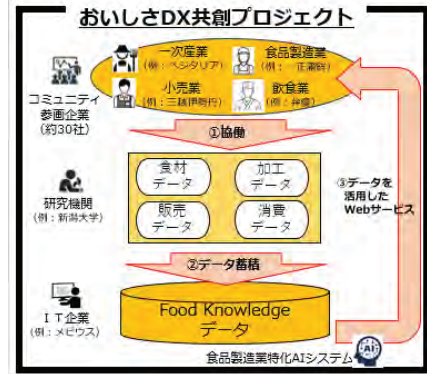
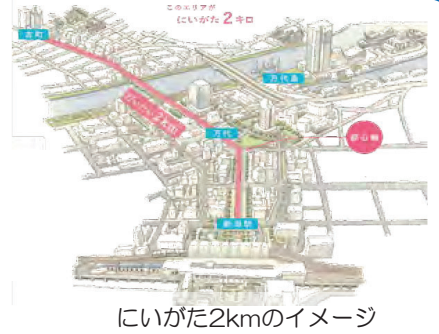
取組内容

（プロジェクトの背景・狙い）

- 地域経済の底上げには、主力産業である食関連産業において、さらなる高付加価値化が必要であり、観光面でも「食」の魅力を活かしきれていないことが課題となっている。
- にいがた2kmには、日本海側最大の飲食・宿泊・商業集積やIT産業の集積が形成されており、にいがた2kmを起点に、新潟大学と地元企業が協働し、デジタル技術の活用によって、食産業の競争力強化と若者に魅力的な産業創出を目指す。

（具体的取組）

- 新潟大学、地元IT企業・食関連企業等が「おいしさDX共創コミュニティ」に参画。
- コミュニティ参画企業の協力により、食に関する各種データを収集し、データベースを構築するとともに、地元IT企業である（株）メビウスが、蓄積されたデータを活用して地元事業者のニーズに合わせたAIを活用したWebサービスを開発し、提供。
- 新潟大学は、「社会共創フードサイエンスセンター」を新設するとともに、トップレベル人材を招へいし、食の研究・教育機能を強化。また、R7年度より、学生や社会人を対象とした「食のデジタル人材育成プログラム」を開講し、食品製造業の現場で分析データやAIを活用した実務を遂行できる人材を育成。
- 「おいしさDX共創コミュニティ」において、地元食関連産業と学生のマッチングの機会を提供。また、企業と大学研究者のマッチングも推進し、共同研究の創出も図る。



企画開発の現場



Webサービスの事例  
AIによる新商品開発（属人化解消・新発想）

事業責任者：林 雅人（株式会社メビウス DXコンサル部 部長）  
 主な参画機関：（官）新潟市（学）新潟大学（産）株式会社メビウス 他